



かもがわ

第17号
2016.1

ご挨拶

1. 特集／新春対談「府民のための病院」であり続けるために
2. トピックス／女性専用外来を開設しました！
患者さまご家族のための「こころの相談コーナー」を開室！
臨床美術作品展を開催しました！
ボツリヌス治療外来を行っています！
渡航ワクチン外来を開設しました！
消化器内科にて内視鏡手術の海外へのライブ中継を行いました！！
3. 健康・予防の豆知識／くすりの豆知識、栄養の豆知識、
病気の豆知識、臨床検査の豆知識
4. 病院からのお知らせ



病院理念 世界トップレベルの医療を地域へ

基本方針

- 高度で安全な医療を提供します。
- 患者様の権利を尊重し、患者様本位の医療を提供します。
- すべての医療人は互いに連携し、チーム医療を推進します。
- 新しい医療を開発するとともに、未来を担う医療人を育成します。
- 京都府における基幹病院として、地域医療に貢献します。

患者様の権利

- 個人として尊重され、平等に良質な医療を受けることができます。
- わかりやすい言葉や方法で、十分な説明を受けることができます。
- 医療に関する個人情報やプライバシーは、保護されます。
- 診療録等に記録された自己の診療内容について、情報提供を受けることができます。
- セカンドオピニオン（他の医療機関等の意見）を希望される場合は、紹介を受けることができます。



新春
対談

「府民のための病院」で あり続けるために

あけましておめでとうございます。

新しい年が始まるに当たり、吉川府立医科大学長、吉村附属病院長、女性初の診療部長（教授）に就任した外園眼科診療部長が「世界トップレベルの医療を地域へ」という理念の基に、今後よりよい医療をどのように府民の皆さんに届けていくのかということについて話し合った内容を紹介いたします。



外園眼科診療部長 吉川府立医科大学長 吉村附属病院長

平成 28 年における附属病院の充実・強化等について、思いをお聞かせください。

吉川: 本学附属病院は、「府民のための病院」と言われており、これは、明治 5 年の「療病院」設立当時からの変わらぬ理念でもあります。「府民のための病院」であり続けるためには、適切な治療が行えるということにプラスして、世界のどこかの病院よりも最先端の治療を行える病院として、京都に住んでいてよかった、附属病院があってよかったと言われる存在になることが我々の目標であると考えています。それには、世界に先駆けた様々な治療を実施し、他の医療機関では、治療できない病気を治療できるようにする必要があります。機器や設備の充実に加えて、すばらしい医療人を育て、例えば、手術については、すべての外科医が神の手と呼ばれるよう研鑽していかないとはいけなく、治療についても、もっと世界から難病等高度な治療を受けに来てもらうように努め、そういった治療を府民の皆さんにも提供したいと考えています。



吉川府立医科大学長

吉村: 本院については、大学の附属病院であるとともに、府立の病院であるという 2 つの側面を考える必要があります。大学病院としては、先進的に他の病院ではできない医療を進めて行かないといけません。府立の病院としては、安心、安全かつ患者さんが受診してよかったと思ってもらえる病院に、言い方を変えれば、「患者さんに選ばれる病院」にしたいと考えています。そのために、安心・安全に基づいた確実な医療を行うとともに、病院で働く全ての人たちのスキルアップをはかり、患者サービスについても向上させたいと考えています。



吉村附属病院長

外園: 府民のために出来た本院は私たちの誇りです。必ず患者さんの視点を忘れないということを基本に持っておきたいと思っています。世界のトップレベルの医療を行いつつ、患者さんの視点を忘れないという 2 つを両立させていくことは難しい時もありますが、様々なスタッフの協力も得ながら実践していきたいと思っています。視野を広く自分たちがしている医療の位置を常に意識し、最善の治療を常に患者さんに提供できるよう努めることにより、一般的な治療はもちろんのこと、オリジナルな治療を開発するという視点を持つことができると考えています。

地域との連携が府立の病院とつながっていく。そういった視点での今後の進め方、取組み方があればお聞かせください。

吉川: 附属病院は、歴史が非常に古いこともあり、全国有数の約 120 の関連病院があります。これは地域連携の充実を図るには恵まれた環境にありますが、現在は少し活かしきれていないのではないかと感じています。今年は、附属病院を中心に関連病院を一つのネットワークとして専門医^{※1}を地域や全国に輩出していきたいと考えています。学生の教育は、府民のためになる医師を本学が育てたいという理念のもとにやってきましたが、新しい専門医制度においても、専門医の教育を我々の責務として取り組んでいきたいと考えています。

司会: 地域との関連で言うと、眼科では優れたネットワークでかかりつけ医の連携の強化を図っておられますが。

外園: 本院、関連病院も含めて、患者さんに一番良い治療を行うためには、関連病院との連携がすごく大事です。治せる病気は、関連病院で治療していただき、治せないものについては本院に紹介いただくというスタイルを構築しています。北部医療センターとは、個人情報情報を隠したまま診察で撮影した写真を本院で見られるシステムを導入し、本院へ直接受診しなくても、地域で治療できるよう取り組んでいます。

※ 1 専門医：専門医は、5 年間以上の専門研修を受け、資格審査ならびに専門医試験に合格し、学会等によって認定された医師のことです。2017 年 4 月から新たな専門医制度が始まります。

具体的な本院の取組みをお聞かせください。

吉川:「がん征圧センター」が中心となって、がん診療では、日本有数の病院として評価されるようになってきています。現在、日本電産（株）の永守社長兼会長からのご寄付による最先端の陽子線治療^{*2}センターの建設も進んでおり、施設を有効に活用できるよう人材の育成等に積極的に取り組んでまいります。また、BNCT^{*3}等の世界最先端のがんの治療研究に踏み出したと考えています。さらに、再生医療^{*4}も臨床医療という面で重点的に取り組みたいと考えています。iPS細胞等は、研究レベルでは、日本が世界のトップを握っていますが、これらは臨床応用され、実用化されてこそ人の役に立つものであり、その点我々の強みは臨床医療レベルの高さにあるので、再生医療の最先端の成果を治療という面で行いたいと考えています。



外園眼科診療部長

吉村:日本人の3人に1人ががんが原因で亡くなっていると言われています。本院は、小児がん、成人のがん等様々ながんをトータルで診られるような病院を目指したいと考えています。また、本院には、16床の緩和ケア病棟がありますが、大学病院で緩和ケア病棟を開設しているところはあまりありません。今後も充実していきたいと考えています。

外園:再生医療の研究が世界でもトップレベルであることは、日本の強みですが、現在患者さんが受けられる治療がほとんどありません。眼科では、2002年から実施している患者さんの口腔粘膜を活用した再生医療を、厚生労働省とも相談しながら、できるだけ早く保険診療で出来るよう目指しています。

これから取り組んでいかないといけないことが目白押しです。

吉村:女性特有の心理や恥ずかしさが原因で病気の発見が遅れ、手遅れになることを防ぎたいと考え、昨年11月から女性専用外来の取組を始めました。現在8診療科において実施していますが、もっと府民の皆さんに活用していただきたいと考えています。

司会:女性の視点から見て、どのようにお考えですか。

外園:女性専用フロアを設けるホテルがあるなど、エリアが女性だけであると言うことが大事であり、医師も看護師も患者さんもみんなが女性であるとなんとなくリラックスできます。外来では、待っている間も女性ばかりでお互いリラックス出来たり、問診の際にも、女性同士だと話やすいこともあると思います。

吉村:患者サービスの1つとして、入退院センターと地域医療連携室の充実も図っていききたいと考えています。患者さんにとって入院から退院まで気持ちよく過ごしていただける環境作りに努めるとともに、退院される時にも、かかりつけ医である関連病院にしっかりとつなぎ、なにかあれば本院が引き受けるということで安心感を持っていただきたいと考えています。



荒田事務部長（司会）

吉川:これからは予防医学にも力を入れていきたい。予防医学には、患者がこれ以上悪くならない、他の病気にならない予防と家族が病気にならない予防という2つの視点があります。予防では、薬は使えないので、運動や食事の指導で積極的に予防医学に関わりたいと思っています。その1つとして機能性農作物、機能性食品による疾病予防に対する取組を考えおり、血糖値が上がりにくい米、アレルギーが起らないお茶等といった食品による指導、販売を国内に先駆けて行いたいと考えています。

最後に一言ずつお願いします。

吉川:現在駐車場について、患者の皆さんにご迷惑をお掛けしています。附属病院は狭い土地にあり、新しく立て直して移転するのは不可能であり、不便をお掛けしますが、出来るだけ公共交通機関で来院していただき、その分、患者サービスや最高の医療でお返し出来ればと考えています。

吉村:引き続き、患者さんに安心して来院していただき、砂漠の中のオアシスのようにくつろいでいただけるような病院を目指して今一度努力していきます。

外園:病院は、患者さんが安心して受診できるところでなければなりません。職員全員が患者さんへの思いを持つと言うことが大事であるので、そういったことができる雰囲気の良い病院を全員で目指したいと思います。

-
- ※2 **陽子線治療:** 陽子線は、体内に入っても表面近くではエネルギーを放出せず、停止する直前にエネルギーを放出して大きな線量を組織に与える性質があります。陽子線治療は、病巣のみに効率よく線量を集中でき、副作用を少なくできます。
 - ※3 **BNCT(中性子捕捉療法):** 中性子とそれに増感効果のあるほう素との反応を利用して、正常細胞にあまり損傷を与えず、腫瘍細胞のみを選択的に破壊する治療法です。現在は臨床研究の段階です。がん細胞と正常細胞が混在している悪性度の高い脳腫瘍をはじめとするがん特に効果的です。
 - ※4 **再生医療:** 再生医療にはいろいろありますが、たとえば自分の身体から幹細胞という特殊な細胞を取り出して増やし、目的とする組織や臓器などにしてから、もとの身体に移植する方法があります。最近では、iPS細胞を使った再生医療にも注目が集まっています。
-

TOPICS



女性専用外来を開設しました！

本院では、女性患者さんで女性の医療スタッフでの対応を希望する方のために、平成 27 年 11 月 2 日から「女性専用外来」を開設しています。

女性専用外来について

◎対象者：女性患者さんで、女性の医療スタッフでの対応を希望する方

◎女性専用外来を設置する診療科（平成 27 年 12 月 1 日現在）

診療科	女性専用外来枠	診療科	女性専用外来枠
総合診療部	毎週火曜日、第 1・3 週木曜日	皮膚科	毎週月曜日
神経内科	毎週金曜日	泌尿器科	毎週火曜日、金曜日
内分泌・乳腺外科	毎週火曜日、木曜日	疼痛・緩和ケア科	毎週木曜日
産婦人科	毎週火曜日、水曜日、金曜日	歯科	毎週火曜日、木曜日

注意事項

「女性専用外来」は女性医師・スタッフにより対応いたしますが、症状に応じた治療内容や必要となる検査内容等により、男性医師・スタッフが対応することがあります。

例えば、再診時には治療内容の専門分野の医師として男性医師が対応する場合や、初診時であっても検査等の内容によっては男性スタッフが対応することがあります。

外来待合室は男性患者さんと共用です。診察室等も女性専用ではありません。

また、採血検査のほか診察後の処置する部屋は、他の男性患者さんや男性医師も共同で使用することがあります。

*お問い合わせ窓口：医療サービス課（医療相談担当）075-251-5235



患者さまご家族のための「こころの相談コーナー」を開室！



京都府立医科大学と京都ノートルダム女子大学の連携事業の一つとして、平成 27 年 8 月 20 日より開室しています。

病気での通院・入院は、患者さま本人はもとよりご家族の心身も揺るがします。「どう関わったらよいのか」「家事や仕事が心配」「悲しい気持ちが続く」といったご家族の心の負担が軽減するよう「がん相談支援センター」とも連携して取り組みます。京都ノートルダム女子大学心理臨床センターの臨床心理士がお話を伺いますので、どうぞご利用ください。

開室日：月・木曜の午前 9 時から正午まで
場 所：外来診療棟 1 階「75」診察室



臨床美術作品展が開催されました！

平成 27 年 8 月 20 日（木）～ 30 日（日）に本院仮設管理棟 1 階南側スペースで「臨床美術作品展」が開催されました。

臨床美術とは、独自のアートプログラムに沿って創作活動を行うことにより脳が活性化し、認知症の症状が改善されることを目的として開発されました。

毎月 2 回、本院の神経内科に通われている認知症の患者さんご家族が参加される講座で作成された“いきいきとしたアート”で、この度、院内で初めて開催された作品展です。





ボツリヌス治療外来を行っています！

ボツリヌス治療とは？

ボツリヌス菌が作り出すボツリヌストキシンを有効成分とするお薬は、筋肉の緊張を緩める作用があります。これを異常な筋緊張がみられる部位に注射することで症状を緩和する治療法です。



対象疾患？

神経内科では、「眼瞼^{がんけん}けいれん」、「片側顔面^{けいれん}けいれん」、「痙性斜頸^{けいせいしゃけい}」、「上肢・下肢痙縮^{けいしゆく}」を対象にボツリヌス治療を行っております。

これらは異常に筋肉が緊張・収縮する病気で、「眼瞼けいれん」、「片側顔面けいれん」では目の開けにくさや顔のピクツキが、「痙性斜頸」では頭や首、肩などが不自然な姿勢を示します。また「上肢・下肢痙縮」は、脳卒中などの後遺症で筋肉が緊張しすぎて、こわばりや痛みが生じる状態のことです。

これらの症状で日常生活にお困りの際はぜひ一度ご相談ください。

担当：神経内科 小泉（水曜日午後）



渡航ワクチン外来を開設しました！

感染症科では、平成 27 年 6 月 11 日に 20 歳以上の成人を対象に「渡航ワクチン外来」を開設しました。当外来では、渡航者を感染症の脅威から守るため、渡航に際しての情報提供、渡航ワクチン接種、さらにマラリア予防薬の処方を行っています。また取り扱いワクチンとして国内承認ワクチンのほか、十分な安全管理のもと国内未承認ワクチン（輸入 A 型肝炎、輸入腸チフスワクチン、輸入狂犬病ワクチン）も導入しており、より多くの方のニーズにお応えできるよう取り組んでいます。

「万全の準備」は「安全な滞在」につながります。詳しくは本院医療サービス課医療相談担当（075-251-5235）にご連絡いただくか、渡航ワクチン外来ホームページ（<http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/kansen/>）をご覧ください。



渡航ワクチン外来の医師と看護師 ↑



消化器内科にて内視鏡手術の海外へのライブ中継を行いました！



本院での中継の様子

消化器内科では、メキシコで開かれた国際消化器内視鏡学会からの要請を受け、本院で行っている大腸癌に対するレーザー内視鏡による診断や内視鏡手術である内視鏡的粘膜下層剥離術の中継を行いました。10 時間ほどの時差がありますが、ネット回線を使用して昨年度は東部のカンクン、今年度は西部のマサトランへ向けて、こちらで午前に行っている手術を現地時間の夜にライブ中継しました。

このような海外へ内視鏡手術の生中継を行うのは、国内初の取り組みであり昨年度、今年度ともに無事に成功させることができました。本院が行っている高いレベルの精密な内視鏡診断や手術を海外の 500 名以上の先生方に見てもらい、内視鏡技術の海外への普及を行うことができました。今後もこのような取り組みを続け、世界規模で大腸癌で亡くられる方が少なくなるよう取り組んでいきたいと考えています。



メキシコでの学会の様子



学会会場での中継映像

健康・予防の豆知識

くすりの 豆知識

薬剤部 連載企画

第13回 内服薬等の包装の誤飲に注意！



消費者庁より、高齢者の誤飲・誤食事故に関する注意喚起が公表されています。

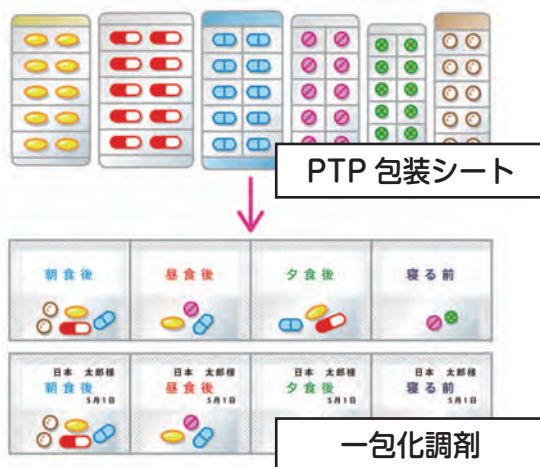
その中で、内服薬等の包装（特に PTP 包装シート）のまま誤飲し、受診や入院に至っているケースも報告されています。

① PTP 包装シートについては、不用意に 1 錠ずつに切り離さないように注意してください。

→ PTP 包装シートが、1 錠ずつに切り離せないよう横又は縦の一方方向にのみミシン目が入っているのは、誤飲を防ぐためです。

1 錠ずつに切り離してはいけません。

②必要に応じて医療機関や薬局にて、一包化による調剤をご相談ください。



栄養の 豆知識

栄養管理部 連載企画

第3回 気になる栄養指導の話



みなさんは栄養指導にどんなイメージをお持ちですか？

「好きなもの、美味しいものが食べられなくなる」、そんなイメージはありませんか？当院では、まずはその人の普段の食事を聞き取って、続けられそうな改善のポイントを一緒に考えています。

例えば、どうしても甘い物が食べたいという方には、甘い物を含む1日の食事を考えて、いつ、どんなものを、どのぐらいの量を食べると身体への負担が少なくてすむのかを提案したりします。

また、減塩のお話であれば、塩分が少なくても美味しい味付けの工夫などを紹介しています。

食生活に不安があるときや、食事療法に行き詰ってしまったときは、ぜひ一度栄養指導を受けにお越しください。

栄養指導の受講を希望される場合は、主治医に相談してください。食生活の改善には、継続して受講することをお勧めいたします。

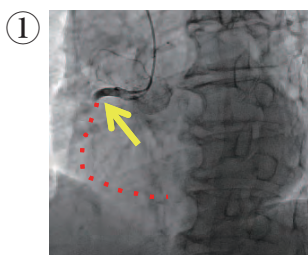


第3回 急性心筋梗塞に対する緊急カテーテル治療

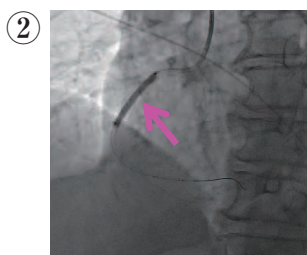
急性心筋梗塞は、突然の胸痛で発症する非常に死亡率の高い病気です。

心臓の周りにあって、心臓を動かしている血管（冠動脈）が、動脈硬化で突然詰まることにより発症します。10人のうち3人は病院に到着するまでに死亡するといわれています。生死を分ける鍵は、緊急カテーテル治療を受けることです。**突然の胸痛があれば、まず救急車を呼んでください。**カテーテル治療により詰まった血管を広げ、元通りに血液を流すことができれば、死亡率を5%以下にすることができます。

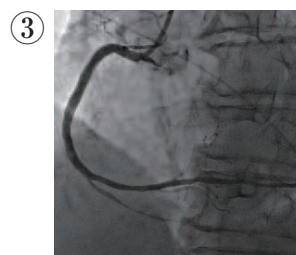
本院では、専門医による緊急カテーテル治療が24時間可能です。急性心筋梗塞の発症を予防する生活習慣は、1) 野菜・魚中心の食生活、2) 1日30分歩く、3) 体重を適正に保つ、4) 禁煙の4つです。糖尿病、高血圧、高脂血症などで薬の治療を行っている場合は、内服をきっちり守ることが重要です。



① 矢印の部分で血管が詰まって血液が流れなくなっている。

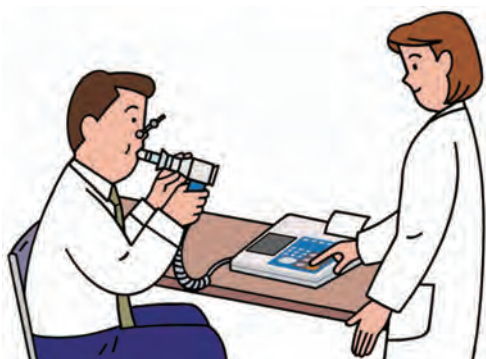
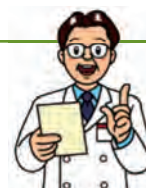


② 血管が詰まっている部分をカテーテルを使って風船で膨らませているところ。



③ 血液の流れが再開した血管

第9回 肺機能検査で何がわかるの？



肺機能検査（呼吸機能検査）は、検査技師のかけ声に合わせて、精一杯息を吸ったり吐いたりしていただく検査です。

患者さんに頑張っていただかないと正しいデータが得られません。

肺機能検査を行うことにより、肺線維症、COPDなどの診断に役立ちます。

COPD・・・慢性閉塞性肺疾患、別名「たばこ病」とよばれることもあります。

吸って！

吐いて！



病院からのお知らせ



(1) イベント・講座等開催予定

事 項	開催日時	内 容	参加費	申し込み先・問合せ先
1 第22回 歯の健康講座	4月2日(土) 14:00～16:00	・講演「(仮) 摂食・嚥下機能障害における歯科の役割」(14:00～15:00) ・歯周病チェック(15:00～16:00 講演終了後に希望者のみを対象) ・相談コーナー ・歯ブラシ等の清掃グッズの展示	無料	歯科 西垣 勝、山本 健太 電話：075-251-5043 FAX：075-251-5045
		会 場	定 員	
		京都府立医科大学 基礎医学学舎1階	100名	

・ひだまりサロン及びひだまりサロン For Kids の開催については、本院のホームページでご確認ください。

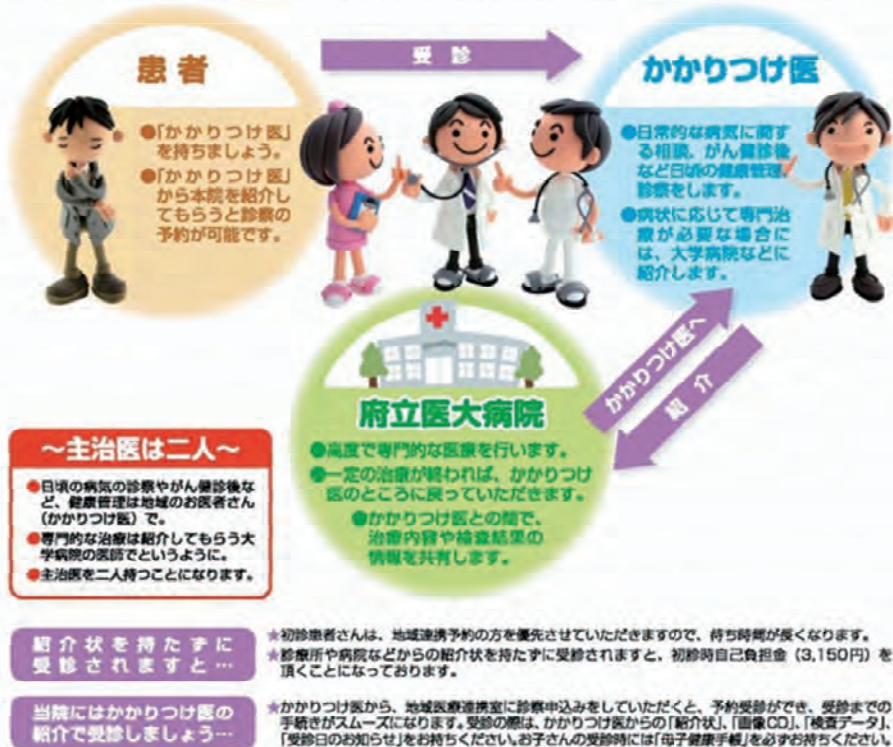
(2) その他のお知らせ

事 項	内 容	問合せ先
1 診療予約情報をメールでお知らせ	ご希望のメールアドレスに診療予約情報を予約日の前日に送信するサービスを行っています。平日午前9時～12時まで登録を受け付けますので、登録希望の方は外来診療棟1階総合案内までお申し出ください。	経営企画課 電話：075-251-5254
2 ハローワーク京都西陣による出張相談のご案内	がん治療を続けながら働きたいという方へ仕事に関する悩みをハローワーク京都西陣の専門相談員が、皆様のご相談に応じます。 開催日：毎月第一水曜日、第三金曜日 10:00～12:00(完全予約制) ご相談希望の方は、がん相談支援センターにお問い合わせください。	がん相談支援センター 電話：075-251-5283

かかりつけ医を持ちましょう!!

地域医療連携とは

- ★ 府立医大病院は特定機能病院として、高度で専門的な医療を行います。
- ★ 地域の医療機関の先生と連携しており、そのお手伝いを地域医療連携室がしています。



休 診 日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

初診受付時間 午前8時45分から午前11時まで

※再診受付時間は、各診療科にお問い合わせください。

敷地内は全面禁煙としております。皆様のご理解とご協力をお願いします。

次 回
平成28年5月
発行予定



京都府立医科大学附属病院

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
電話：075-251-5111(代表)
HP：<http://www.h.kpu-m.ac.jp>